

実習内容報告 @ Columbia University

大阪大学医学部医学科 6年

CL

この度、5年次選択実習としてコロンビア大学にて心臓外科と移植外科を見学させていただきましたので御報告させていただきます。

【海外留学の動機・目的】

- 日本と海外の医療事情の違いについて学ぶ
- 海外で活躍されている先生方の業務を見学する
- アメリカで豊富な移植症例に触れる
- 海外の医学生・研修医と英語でコミュニケーションを図る
- 自身の今後の進路選択に役立てる

【実習期間】

2016年2月8日～3月4日（4週間）

【受け入れ先】

New York-Presbyterian Hospital (Columbia University)

【実習開始までの準備】

- TOEFLを受験する（4回生秋）
- 受け入れ先の事務担当者とメールで連絡をとる（5回生夏）
- 航空券を予約する（5回生秋）
- 学生寮の申し込みをする（5回生冬）
- 実習科で最低限必要だと思われる知識・英単語の勉強（5回生冬）

【実習内容】

2週間を心臓外科、1週間を移植外科にて実習させていただきました。

心臓外科では主に中好文先生に御世話になりました。日本人の先生は6名いらっしゃり、うち阪大出身の先生は3名というとても心強い環境で実習させていただきました。一日の流れとしては、移植やカテーテルのカンファレンスに参加した後、先生についてICU, CCU, CTCUの回診に同行し、それが終われば手術を見学するという内容でした。移植カンファレンスでは医師以外の様々な職種の人たちが一つひとつの症例について細かく議論していたのが新鮮でした。手術は冠動脈バイパス術(CABG)やMVR/AVRなどの弁置換術を見学する機会が多く、その他にもLVAD植込みや心肝同時移植という珍しい症例も経験することができました。日本人の先生方は特に手術の手際がよく、周囲に的確な指示を出されていたのが印象的でした。最終日にはアメリカでresidencyを経験された東大出身の高山先生にアメリカで留学する際の流れについて貴重なお話をうかがうことができました。アジア人にとって、アメリカという競争の激しい地で国籍や言語などの障害を乗り越えて医師として実力を認められるには計り知れない努力が必要だと感じました。そのような環境で活躍し信頼されている先生方とお会いできたことは、自分にとって非常に励みになりました。

移植外科では加藤友朗先生に御世話になりました。加藤先生は他施設で手術不可能と診断された患者を数多く救っており、世界初の多臓器体外摘出腫瘍切除術も成功させていることでアメリカでも有名な外科医です。一日の朝は術後回診から始まるのですが、physician's assistantという職種の人たちが各患者の状態を医師に詳細にプレゼンしていたのが印象的でした。カンファレンスでは移植適応の患者について一例ずつ丁寧に話し合っていました。加藤先生の計らいで日本では滅多に見られない症例を見学することもできました。肝体外切除術を見るのは初めての体験で、注意深く血管や神経を切断し肝臓の一部を取り出している光景はまるで移植手術のようでした。加藤先生の外来を見学では、加藤先生と患者・家族との間に深い信頼関係が生まれていることがよく分かりました。また、英語が通じない中国系の患者に対して電話で医療通訳者を介して加藤先生と患者が英語と広東語でコミュニケーションをとっていたのがアメリカならではの光景でした。ドナー症例は2件あり、移植外科での最終日にはフロリダでのドナーの肝臓摘出に同行することができました。セスナに乗ったり、脳死の患者を見たりと初めての体験の連続でした。実際に清潔になって間近で術野を見ることができ、臓器移植の臨場感を味わうことができました。一生忘れられない経験となりました。加藤先生とのお話の中で、臓器提供の普及の話から”脳死”の状態が客観的に理解しがたい理由、日本の医療や医学教育が向かう先などといった深いお話もうかがうことができ、非常に充実した実習となりました。

また、実習中は東京大学や慶應大学からの医学生と交流することができました。互いの大学や進路について情報交換したり、昼食を共にしたりと同年代の人たちと楽しい時間を過ごしました。

【実習の成果】

1ヶ月間のコロンビア大学での実習は、私に色々なことを気づかせてくれました。

- 本当に好きなことを選び、継続することが成功の秘訣
- どこにいてもグローバルな視野をもつことは大事
- 世界基準で医学・医療を学ぶことが求められる
- “阪大出身”を誇りに、世界に発信できることを考える

コロンビア大学で出会った先生方はご自身のお仕事に誇りを持って毎日生き活きとされているのが印象的でした。そのような医師になるためにも、今のうちにたくさんのご経験し自分が心から興味を注げるものを見つける努力をしたいと思います。また、どこの国を拠点にするにしても、これからは世界を意識する必要があると感じました。その一つとして、国内だけではなく世界基準で医学や医療を学ぶことは重要だと思いました。国内外の医療従事者と情報交換をするメリットは今後高まっていくだろうと気づかされましたし、大阪大学出身者として世界に発信できることは何か考えながらこれからの日々を過ごしていこうと思いました。

【観光地】

ニューヨークは観光には困りません。1ヶ月間、緊急オペの連絡がない時は色々な所へ足を伸ばしました。例えば、

- Statue of Liberty
- Empire State Building
- 5th Avenue
- Times Square
- Brooklyn
- Museum of Modern Art (MoMA)
- Metropolitan Museum
- Central Park
- Broadway musical (Wicked)
- NBA (basketball)
- Village Vanguard (Jazz bar)

また、父親が私に合わせてニューヨークを訪問したので、バスに乗って近くのボストンへ観光にも行きました。ニューヨークとはまた違った、静かで綺麗な街でした。さすが Harvard University や MIT は大規模で、一度見ておくといいかもしれません。食べ物は、アメリカらしい junk food から本格的なアジア料理まで、ほぼ何でもあります。

【費用】

航空券	約 15 万円
寮	約 9 万円
授業料	なし
生活費	約 30 万円
岸本奨学金	15 万円

合計 約 40 万円

生活費がかなりかかってしまったのですが、主に食費だったと思います。

ニューヨークで外食は安くないです。コストを抑えたいなら寮で自炊しましょう。

【アドバイス】

- TOEFL や IELTS は早めに受験すること。
かなり頑張らないと 1 発で良いスコアを出すことは難しいと思うので、金銭的にも時間的にも何回か受験できる余裕を持ったほうがいいです。
- 受け入れ先の事務担当者は世界中からの見学・実習の申し込みに対応しているのでとても忙しいです。こちらが連絡をして 1 ヶ月半後に返事が来ることは当たり前です。受け入れ先が決まったら、実習開始日の半年前くらいには連絡を取り始めるといいと思います。また、向こうが返事するのを忘れているときもあるので、一向に返事が来なければリマインドしてみたほうが良いと思います。
- アメリカの大学は違法薬物の使用に対してとても厳しいです。アメリカに到着したらまずドラッグテストを受けて陰性の結果が出ないと大学の ID を発行できません。ID を発行できるまで 1 週間くらいかかってしまうので、実習開始予定の 5 日前くらいには現地入りするのをおすすめします。

今回の海外留学を実現するにあたり、多大な御支援をいただいた岸本忠三先生、そしてコロンビア大学の中好文先生、加藤友朗先生、医学科教育センターの和佐勝史先生、河盛段先生、その他御世話になった方々に厚く御礼申し上げます。